

新聞鹿兒島事情

馬車 (ぼしや) 人力車の往返 (わうへん) に其轟 (とどろき) ハ雷 (いかづち) かと

思 (おも) はれ、稲妻 (いなづま) よりも瓦斯燈 (がすとう) の光 (ひかり) 尊 (たふと) き

開化 (かいくわ) の御代 (みよ)、去ル一月卅一日とか、三菱會社 (めいさんかいしゃ) に名も高き心の内も赤龍丸 (せきりゅうがん)、鹿兒島縣下 (かごしまけんか) の櫻島 (さくらじま) 其向ふなる製造 (せいぞう) 所より彼 (かの) 彈 (だん) 藥 (やく)

を積みこまれ、尚本月一日とかや、残る彈藥 (だんやく) 積み込 (こま) んと氣ハせきたんの用意 (い) の折 (をり) から、不 (ふ) 意に士族 (しぞく) の押寄 (おしよ) せ来り、彼 (かの) 彈 (だん) 藥 (やく) を悉 (ことごと) く運 (はこ) び返 (かへ) せと争 (あらし) ひの心の程 (ほど) も蒸 (じやう) し決 (ひつ) して彈藥を奪 (うば) ひ取 (と) りたるにハあらずとかや、何 (いづ) れ近 (ちか) きに鎮靜 (ちんせい) の色とり見せしも風説 (ふうせつ) の信 (しん) じがたきを画 (ゑ) がくとしかいふ、丑 (うし) のはる